

着任のご挨拶

樋川 和子

皆さま、はじめまして。2024年4月にRECNAに着任しました樋川和子と申します。

2019年末に24年余り勤めた外務省を退職し、2024年3月まで大阪女学院大学で教育と研究に携わっておりました。外務省時代は、ボン、ベルリン、ウィーン、ワシントン、バグダッドと海外での勤務が多く(累計で16年以上を海外で過ごした計算になります)、最後は大阪に落ち着くのかなと思っておりましたら、この度ご縁がありまして長崎に来させて頂くことになった次第です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

核軍縮・核不拡散の分野には2002年8月に外務省の軍備管理・軍縮課という部署に配属されてから部署は変われどもずっと携わってまいりました。2002年というのはちょうどイランが秘密裏に核活動を行なっていることが反政府組織によって明らかにされた年です。年が明けた2003年1月には北朝鮮がNPTからの脱退を宣言し、3月にはイラクが核兵器を含む大量破壊兵器を開発しているという疑惑を理由にアメリカ主導によるイラク侵攻が行われました。

あれから20年以上経ちましたが、イランの核問題も北朝鮮の核問題も解決しておりません。多国籍軍の侵攻を受けたイラクは今も内紛が続いたままの状況です。私がバグダッドに在勤していた2015年から2017年にかけてバグダッドでは毎週平均50~60人余りの一般市民が簡易爆弾や銃撃で殺されました。市場やデパートに爆弾がしかけられ、一度に100名以上が殺されることもありました。死というもの非常に身近な存



在のイラクの人々にとって、平和で安全な日本は「外国」ではなく、「違う惑星」なのだそうです。イラク在勤を通じ、命の尊さ、平和の尊さを身に染みて感じるとともに、その脆さもまた痛感しました。

こうしたこれまでの経験などを踏まえ、核兵器のない平和で持続可能な世界の実現を目指して、今後とも研究を続けていく所存です。

(ひかわ かずこ、RECNA副センター長・教授)

RECNA ポリシーペーパー20 を刊行

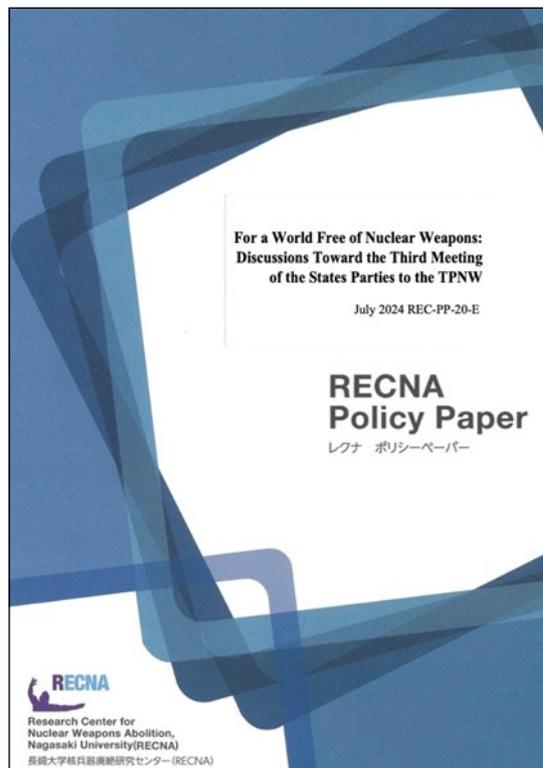
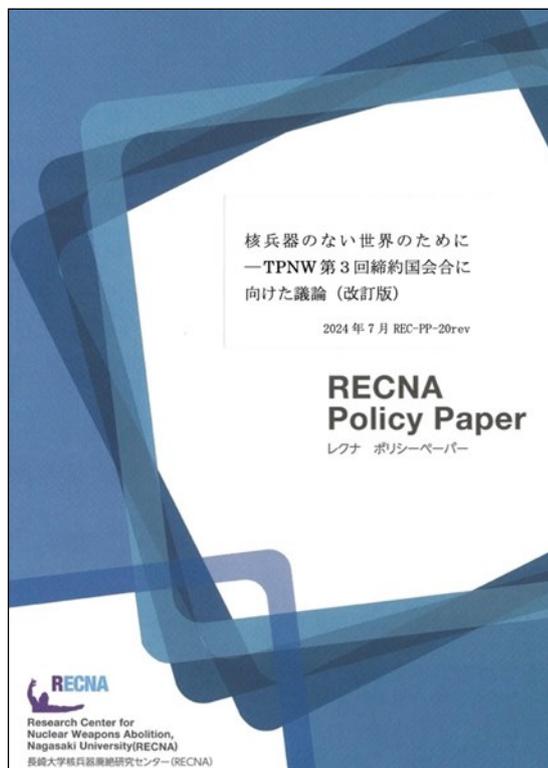
河合 公明

核兵器禁止条約(TPNW)は2021年1月に発効したが、その評価は二分されている。核兵器の使用による人道上的結末を懸念する諸国および市民社会は、TPNWを核兵器の廃絶に向けた第一歩と評価するが、核兵器を前提とする安全保障政策を採用する諸国は、TPNWは国際的な安全保障環境の現実を無視していると、一つの核兵器も廃絶することはできないと批判している。

TPNWは、核抑止が失敗した場合に核兵器の使用がもたらしうる人道上的影響や核兵器のリスクに関する科学的証拠を

理論的根拠とする。TPNWはまた、核抑止を支持する国家安全保障上の議論に挑戦を試みようとしている。しかし、TPNWの考え方と核抑止に基づく安全保障の考え方との間では、必ずしも議論が噛み合っていない。

その理由についてTPNW推進国は、核保有国とその同盟国が主張する議論と、TPNWが立脚する議論との間には根本的な断絶がある、と分析している。そこで、TPNW締約国と署名国は、核抑止に依存する安全保障の問題点について専門家などの意見も聞きながら報告書をまとめる議論を進めている。



報告書は、第3回締約国会合に提出される。

RECNAは7月、上記の議論に貢献するためのポリシーペーパーを刊行した。「核兵器のない世界のために—TPNW第3回締約国会合に向けた議論」と題したポリシーペーパー20は、①従来の国家安全保障の観点から見て核抑止論にはどのような問題があるか(第1章)、②核兵器の禁止からその廃絶を目指すTPNWにはどのような課題があるか(第2章)、③核兵器のない世界に転換するためには何を考える必要があるか(第3章)、という三つの問いをもとに6本の論考から構成されている。

論考の執筆は、河合公明(長崎大学)、鈴木達治郎(長崎大学)、山田寿則(明治大学)、西田充(長崎大学)、樋川和子(長崎大学)が担当している。河合は、国際人道法の害敵方法の規制の検討から害敵手段としての核兵器の禁止を追求するアプローチの有用性について(論考1)、鈴木は、核抑止のリスク評価と科学諮問グループ活用の重要性について(論考2)、山田は、TPNW第6条・第7条(核被害者援助と環

境修復)の履行を確保するために必要な7項目について(論考3)、西田は、核廃絶を実現するためにTPNWが内包する諸課題(原子力の平和利用の扱い、核兵器運搬手段についての規定の欠如、検証枠組みの脆弱さ、執行体制の欠如等)(論考4)とTPNWを避ける日本の論理(非論理?)と今後の道筋について(論考5:要旨)、樋川は、核兵器に依存する世界の根底にある分断と対立を乗り越えるための方策について(論考6)議論を展開している。

ポリシーペーパー20は、TPNWのアプローチと問題意識を共有しつつも、そのアプローチが抱えている課題にも十分に意識を払って議論を展開している。英語版も同時に作成され、7-8月にジュネーブで行われた核不拡散条約(NPT)再検討会議準備委員会で各国政府はじめ関係各所に配布された。明年3月のTPNW第3回締約国会合の作業文書として登録する予定である。

(かわい きみあき、RECNA副センター長・教授)

グローバルリスク研究センターの設置

樋川 和子

2024年6月1日、長崎大学にグローバルリスク研究センター(Research Center for Global Risk)が設置された。核兵器使用のリスクや、地球環境破壊、パンデミックなど、人類の存続に影響しうる地球規模のリスクについて学際的研究を行うセンターの新設である。RECNAからも副センター長として樋川和子教授が就任しているほか、多文化社会学部教授でRECNAも兼務する西田充教授も副センター長を務める。

長崎大学は、「人類と地球の抱える多様で相互に関連する問題群の解決に向け、学際的にその知を結集・創造することで世界的プラネタリーヘルスの実現に貢献する」ことを宣言している。新たに設置されたグローバルリスク研究センターは、この目標を達成するために、長崎大学の強みである平和教育・核兵器廃絶研究、放射線医療科学、熱帯医学・感染症研究における実績を活かしつつ、「グローバルヘルス」、「グローバ

ルリスク」、「グローバルエコロジー」の3つの分野に貢献する研究と教育を推進するものである。また、文理協働のもと、国際的な連携や共同研究を実施し、国際社会へのさまざまな提言を行うとともに、次世代の研究者、政策立案能

力のある専門家、国際社会におけるリーダーの育成も行う学際的研究創発の場となることが想定されている。

(ひかわ かずこ、RECNA副センター長・教授)



ナガサキ・ユース代表団ジュネーブ活動報告 ナガサキ・ユース代表団 第12期生

ナガサキ・ユース代表団12期生の6名は、2026年核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けた第2回準備委員会に参加するため、2024年7月22日から26日にジュネーブを訪れた。5日間の活動では、核兵器廃絶や平和の実現を目指して各国の代表や専門家との対話を通じて、多くの学びを得ることができた(1名は9月22-23日にニューヨークの国連本部で開催された未来サミットに参加)。

国連の厳粛な雰囲気の中、22日のオープニングセッションに参加した。核の脅威や軍縮に関する各国の発表を理解し、日本のメッセージにも耳を傾けた。その日の午後には、日本被団協の児玉三智子さんから「被爆者は死ぬまで被爆者」という言葉を含む被爆体験の講話を聞き、核兵器廃絶への強い思いを共有した。また、ICANのメリッサ・パーク事務局長や核戦争防止国際医師会議(IPPNW)の方々との面会では、核軍縮に向けた様々な視点を学んだ。

24日には、私たちが主催したサイドイベント「Bring Your Piece of Peace for Dialogue—With Nagasaki Atomic Bomb Exhibition @UNOG—」を開催し、参加者から「平和への思い」を集めて、Tシャツに書き込んでいただいた。鈴木史朗市長、メリッサ・パークICAN事務局長、馬場裕子長崎県副知事

をゲストスピーカーとしてお招きし、立場や背景を超えた平和の「かけら」を参加者で共有した。

滞在期間中、様々な専門家の方々とお会いした。国連軍縮研究所(UNIDIR)のロビン・ガイス所長やドイツのトーマス・ゲーベル大使、南アフリカのムクソリシ・ンコシ大使との面会では、核軍縮や国際社会の役割について意見を交換した。特に、核兵器の放棄に成功した南アフリカの歴史からは、平和に向けたリーダーシップの重要性を学んだ。市川とみ子軍縮会議日本政府代表部大使との意見交換では、「恐怖を感じない世界が真の平和」という言葉が印象に残り、平和の本質について深く考える機会となった。

最終日の25日には、ICANの事務所や赤十字国際委員会(ICRC)を訪問し、戦争や紛争によって引き裂かれた家族の再会支援など、人道的支援の現場を学んだ。

こうした面会や議論を通じて、平和の実現には対話と交流が不可欠であると実感した。今回のジュネーブ訪問で得た学びと経験は、私たちの今後の活動に大きな力となる。帰国後も引き続き、平和への思いを発信し、核兵器のない世界の実現に向けて行動していきたい。ナガサキ・ユース代表団12期生の挑戦は続く。



ナガサキ・ユース代表団 第12期生(50音順)

江川 航士朗 (長崎大学工学部1年)
 金子 真歩 (長崎大学医学部1年) ※ニューヨークに派遣
 河邊 桜 (長崎大学大学院工学研究科1年)

小林 万葉 (長崎大学多文化社会学部1年)
 平林 千奈満 (長崎大学大学院教育学研究科1年)
 廣瀬 貴彌子 (長崎大学大学院工学研究科1年)
 福浦 知葉 (長崎大学工学部1年)

核弾頭データポスターのリニューアルについて

中村 桂子

核軍拡が進む世界の現状をよりの確に、かつわかりやすく人々に伝えることを目指し、核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)とRECNAは今年、2013年より毎年発行している「世界の核弾頭データ」ポスターの大幅なリニューアルを行った。

これまでのポスターは、世界に存在する核弾頭を保有国別・種類別にアイコンで表現し、9カ国の総数を大きく表示してきた。過去11年間のポスターを並べてみると、2013年の17,300発から2023年の12,520発まで、核弾頭総数では一貫して減少傾向にある。

しかし各国間の対立が激化し、核兵器使用のリスクが増大する世界情勢を背景に、減少し続ける総数を示したポスター単体では「世界の今」を正しく表現することが難しくなってきた。削減数の多くの部分は米国の「退役・解体待ち弾頭」、すなわち冷戦時代に作られ、老朽化した核弾頭などであり、数の減少が単純に核戦力の縮小を意味するものではないからである。質的な核軍拡といえる「核の近代化」の一環として実施された核兵器の種類統合により弾頭数が減ったというようなケースもある。

そこで私たちが注目したのは「現役核弾頭数」という概念である。これは総数から「退役・解体待ち」核弾頭を引いた数、すなわち配備されていつでも使える状態にある核弾頭と、配備に備えて貯蔵されている核弾頭の数の合計を指している。2013年から24年の推移を現役核弾頭数で見ると、2013年の10,200発から2024年の9,583発へと、削減数は617発に留まっている。さらに、米ロが新戦略兵器削減条約(新START)履行期限であった2018年を起点に、明らかな増加傾向にあることがわかる。新版ポスターでは、この「現役核弾頭数」を前面に出すことにより、核兵器をめぐる世界の実態が一目でわかるようにした。

また、これまでのポスターでは、単年度ごとの保有数の情報はあるものの、各国の「傾向」をとらえることが困難であった。そこで新版ポスターでは、2018年から24年の各国の現役核弾頭の増減を「弾頭数」と「増減率」で示すことで、それぞれの国の「傾向」を明らかにすることにした。

もちろん一枚のポスターが示すことのできる内容は限られている。上述したように、ポスターでは「質的」な軍拡は表現できていない。たとえば米国は9カ国で唯一、現役核弾頭数を

減らしているが、同時に莫大な予算を投じて近代化計画を進めている国でもある。米口を筆頭に、各国では最先端技術を使った新型核弾頭やミサイルの開発も加速している。

そこで、ポスターの内容を補足し、核兵器をめぐる世界の状況に関するより深い理解を促すために、今年は解説リーフレットも一新した。さらには、核弾頭に関するよくある質問をQ

&A方式で解説する「デジタル解説」も作成した。これはスマホやタブレット対応となっており、小中学生から大人まで、さまざまな機会に学習教材として使われることが期待されている。

(なかむら けいこ、RECNA准教授)



詳しくは



<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/topics/46410>

第3回「核なき未来」オピニオン賞

鈴木 達治郎

2024年9月21日(土)、RECNAが主催する第3回「核なき未来」オピニオン賞の授賞式が開催された。

本事業は、RECNA創設10周年記念事業の一環として2022年に開始されたもので、若い世代に広く核兵器問題の重要性を訴えらるとともに、平和な国際社会の実現に貢献できる人材の育成を図ることを目的としたものである。昨年に引き続き長崎新聞社の協力に加え、長崎県、長崎市、KTNテレビ長崎、NBC長崎放送、NCC長崎文化放送、NHK長崎放送局、NIB長崎国際テレビから後援をいただいた。なお、本事業の運営にはRECNA寄付金を活用させていただいている。

オピニオン賞では毎年、時宜に合ったテーマを課題の問いとしており、今年は米大統領選をはじめ、主要国で選挙イヤーでもあったので、『核兵器に頼る国のリーダーへ ―今、あなたなら何を訴えますか?―』とした。また、昨年同様、募集枠を「U-20(16歳以上、20歳未満)」と「U-30(20歳以上、30歳未満)」の2つの部に分けて募集をおこなった。

結果、応募総数は51作品(U-20:12件、U-30:39件)となった。海外からの応募は9作品となり、現住所を見ても米

国、フランス、インドの核保有国をはじめ、インドネシア、ナイジェリア、フィリピン、ニュージーランド、台湾、と世界各地に広がっている。芥川賞作家・青来有一氏を委員長とする審査委員会の厳正なる審査の結果、U-20、U-30それぞれの部で最優秀賞者1名、優秀賞者1名が選定された。以下の通りである。

【U-20の部】

最優秀賞: 石山 力輝(いしやま りき)さん、米パークシャー高校 17歳

優秀賞: 小川 朋子(おがわ ともこ)さん、立命館アジア太平洋大学 18歳

【U-30の部】

最優秀賞: 西山 厚人(にしやま あつひと)さん、会社員 27歳

優秀賞: 岡本 沙紀(おかもと さき)さん、東京大学工学部 24歳

授賞式には西山さんが対面で出席し、石山さん、小川さんがオンラインで出席した。受賞者には青来委員長より賞状と

盾が授与された。最優秀賞者2名の作品は、翌22日の長崎新聞紙面に全文(原文が英語のものについては仮訳)が掲載された。また、RECNAのホームページには、受賞者4名の作品全文に加え、最終選考に残った作品のうち、本人の承

諾を得た作品を掲載している。

(<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/topics/47042>)

(すずき たつじろう、RECNA教授)



授賞式出席者の集合写真

新しい客員教授 二人が着任

吉田 文彦

9月1日付で新たに二人の専門家がRECNA客員教授に加わった。二人共にすでに多くの研究実績を積み重ねており、RECNAの今後の発展に貢献が期待されるだけでなく、新たな視点を提供されることと確信している。以下は二人の名前と略歴である。業績などが掲載されたURL(リンク)も付記する。

関山 健(せきやま たかし)

早稲田大学法学部卒業後、財務省、外務省勤務などを経て、2019年4月から京都大学大学院総合生存学館准教授、2024年7月から同教授。専門は、国際政治経済学、国際環境政治学、アジア太平洋地域研究(日、中、米、印など)。学位は香港大学社会科学学院(修士)、ハーバード大学公開教育学院(修士)、北京大学国際関係学院(博士)、東京大学新領域創成科学研究科(博士)。詳しい研究業績などは [こちら](#) を参照。

ヤロスラフ・クラスニー (Jaroslav Krasny)

立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部卒業後、広島大学国際協力研究科で2014年に修士、2022年に博士の学位を取得。2022年にはジュネーブ国際人道法と人権アカデミーでも修士を取得。専門は国際人道法、大量破壊兵器に関する諸問題。チェコ共和国内務省安全保障部大量破壊兵器不拡散課・上級執行官、広島大学国際協力研究科のリサーチアソシエイトなどを経て、2023年から国連軍縮研究所の研究員(大量破壊兵器プログラム)を務めている。詳しい研究業績などは [こちら](#) を参照。

(よしだ ふみひこ、RECNAセンター長・教授)

RECNAの活動

2024年4月1日～2024年9月30日

- 4月 3日(水) ■「北東アジアにおける核使用リスク削減に向けて」(NU-NEA)プロジェクト最終報告書発表についての記者会見
吉田センター長、鈴木教授
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 4月 20日(土) ■姫路市立城乾中学校 平和学習
講師:中村准教授 場所:原爆資料館
- 4月 21日(日) ■姫路市立白鷺小中学校 平和学習
講師:中村准教授 場所:原爆資料館
- 4月 26日(金) ■第3回「核なき未来」オピニオン募集についての記者会見
青来有一芥川賞作家・「オピニオン」募集審査委員長、吉田センター長、鈴木教授、中村准教授
場所:RECNA1階会議室
- 5月 18日(土) ■2024年度核兵器廃絶市民講座
第1回 プラネタリーヘルスと核廃絶—地球と人間の健康のために
講師:吉田センター長、春日プラネタリーヘルス学環教授
場所:長崎原爆資料館ホール+オンライン
- 5月 28日(火) ■「北東アジアにおける核使用リスクの削減(NU-NEA)」プロジェクトオンライン報告会
吉田センター長、樋川副センター長
- 6月 5日(月) ■2024年度版「世界の核弾頭データポスター」・「世界の核物質データ」発表記者会見
調核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、吉田センター長、鈴木教授、中村准教授
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 6月 11日(火) ■レクナの目(見解文)「被爆地長崎の歴史的使命を考える—第二次世界大戦 終 結 80 年 に 向 け て —」発表
- 6月 18, 25日 ■長崎市立横尾中学校 平和学習
7月 2日 講師:中村准教授 場所:長崎市立横尾中学校
- 6月 27日(木) ■長崎市立福田中学校 平和学習
講師:河合副センター長 場所:長崎市立福田中学校
- 6月 28日(金) ■「平和と核軍縮」誌(J-PAND) 第7巻1号 刊行
- 7月 5日(金) ■RECNAポリシーペーパーNo.20 『核兵器のない世界のために—TPNW第3回締約国会合に向けた議論』刊行について記者会見
河合副センター長、樋川副センター長
場所:RECNA1階会議室+オンライン
- 7月 6日(土) ■2024年度核兵器廃絶市民講座
第2回 進む核軍拡—核弾頭ポスターから読み解く
講師:中村准教授、鈴木教授
場所:長崎原爆資料館ホール+オンライン
- 7月 12日(金) ■ナガサキ・ユース代表団のNPT再検討会議準備委員会派遣記者会見
ナガサキ・ユース代表団、調核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、河合副センター長
場所:長崎大学事務局2階第3会議室
- 7月 19日(金) ■RECNA「NPTブログ2024」発行について記者会見
吉田センター長、鈴木教授、中村准教授
場所:RECNA1階会議室
- 7月 22日(月) ■2026年核拡散防止条約(NPT)再検討会議第2回準備委員会参加:調核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、河合副センター長、中村准教授、ナガサキ・ユース代表団第12期生
- 8月 2日(金) ~
- 8月 8日(木) ■2024連合平和ナガサキ集会
講師:吉田センター長
場所:長崎県立総合体育館

- 9月12日(木) ■平和と環境—未来の地球のために
樋川副センター長、
場所: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
- 9月17日(火) ■ナガサキ・ユース代表団第12期生 活動
報告会
場所: 長崎大学文教スカイホール+オンライン
- 9月20日(金) ■レクナ目(見解文)「自民党総裁選 核
政策を巡る議論を危惧する」発表

- 9月21日(土) ■第3回「核なき未来」オピニオン授賞式
場所: RECNA1階会議室+オンライン
- 9月27日(金) ■ナガサキ・ユース代表団第13期生募集
開始に伴う記者会見
調核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、河合
副センター長
場所: RECNA1階会議室

お知らせ

ナガサキ・ユース代表団第13期生募集開始

下記の要領でナガサキ・ユース代表団第13期生の募集説明会を開催します。(内容は3回とも同じです)

第1回説明会: 10月17日(木)18:00~19:00

於: 長崎県立大学シーボルト校 中央棟 M102

第2回説明会: 10月18日(金)18:00~19:00

於: RECNA1階会議室(オンライン有)

第3回説明会: 10月19日(土)10:30~11:30

於: RECNA1階会議室(オンライン有)

◇ 応募受付期間: 10月21日(月)~10月31日(木)17:00必着
(郵送または持参)

詳細及び応募様式等は [こちら](#) からご確認ください。

2024年度 核兵器廃絶市民講座のご案内

第3回「近づく米大統領選—核軍縮の行方を考える」

講師: 太田 昌克 (共同通信編集委員、RECNA客員教授)

西田 充 (多文化社会学部教授)

樋川 和子 (RECNA教授)

日時: 2024年10月5日(土)13:30~15:00

会場: 長崎原爆資料館ホール+オンライン配信

第4回「ジェンダーから見た核軍縮」

講師: 榎本 珠良 (明治学院大学准教授)

河合 公明 (RECNA教授)

日時: 2024年11月30日(土)13:30~15:00

会場: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
交流ラウンジ + オンライン配信

※ 詳細は [こちら](#) をご覧ください。



長崎大学核兵器廃絶研究センター

第13巻1号 2024年9月30日発行

発行 長崎大学核兵器廃絶研究センター
〒852-8521 長崎市文教町1-14
Tel. 095-819-2164 Fax. 095-819-2165
E-mail: recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>

©2024 長崎大学核兵器廃絶研究センター